
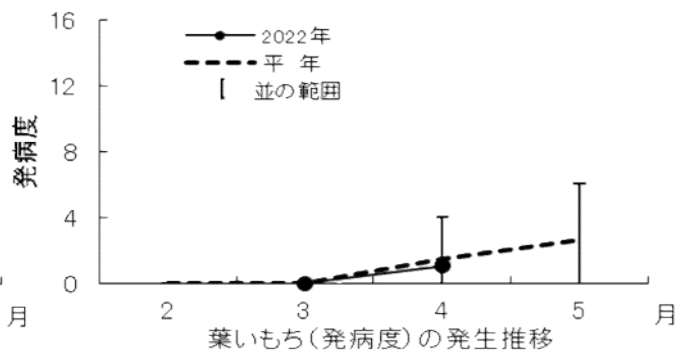
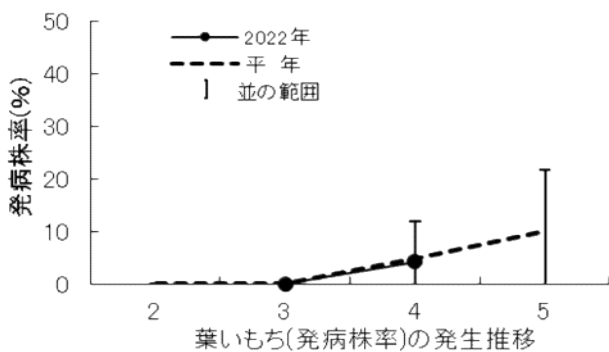


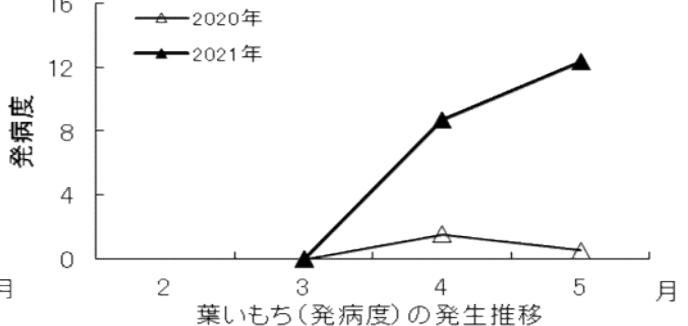
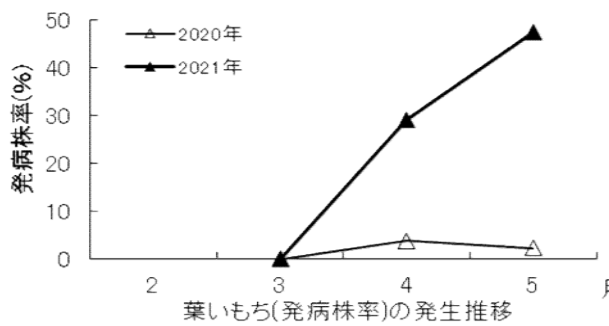
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	① 葉いもち病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：31% (平年値：33%)

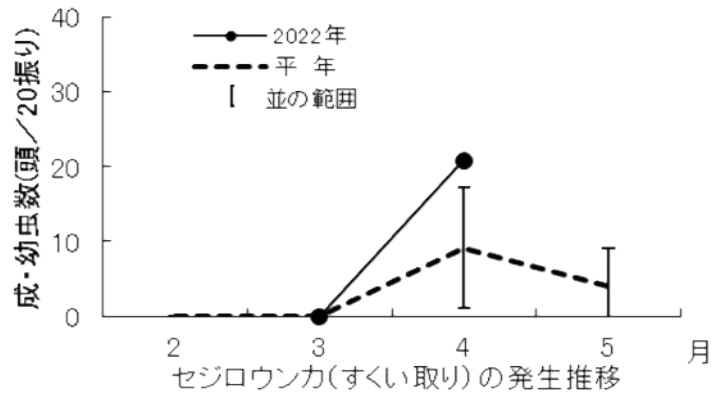
防除のポイント

- ・窒素肥料の過用により徒長した場合や葉色が濃い場合に発生が多いため、これらのほ場では施肥量を減らすか、ケイ酸資材の施用を行う。
- ・穂いもち病への移行を防ぐため、発生を確認したら速やかに薬剤防除を行う。
- ・発生の多い地域では、共同防除を行う。
- ・収穫後の被害わらは次作の感染源となるため、水田付近に放置しない。
- ・汚染もみは次作の感染源となるため、発生ほ場からは採種しない。

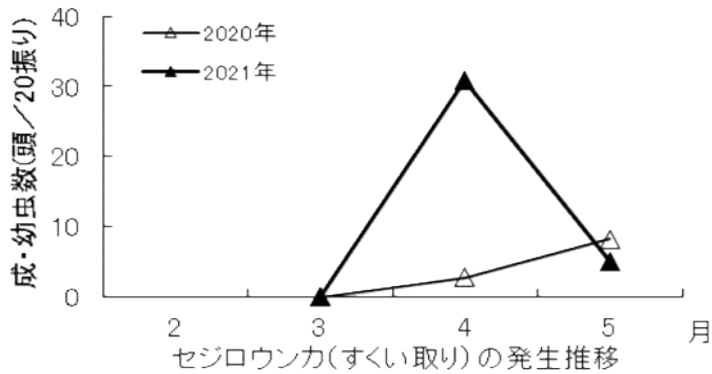
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	② セジロウンカ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：88% (平年：67%)

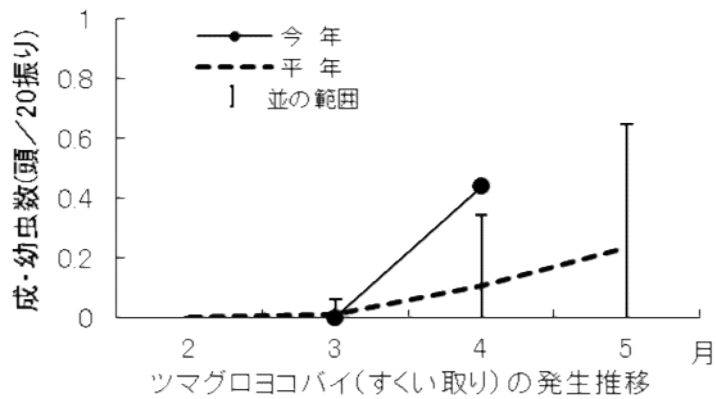
防除のポイント

・ウンカ類は株元に生息するため、薬剤防除を行う場合、株元に十分に薬剤がかかるように心がける。

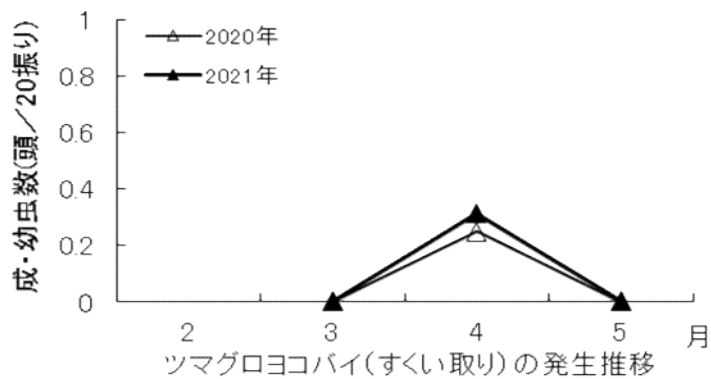
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	③ ツマグロヨコバイ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報の根拠	平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

今期と平年の推移




過去 2 年間の推移



・発生ほ場率 : 38% (平年値 : 7%)

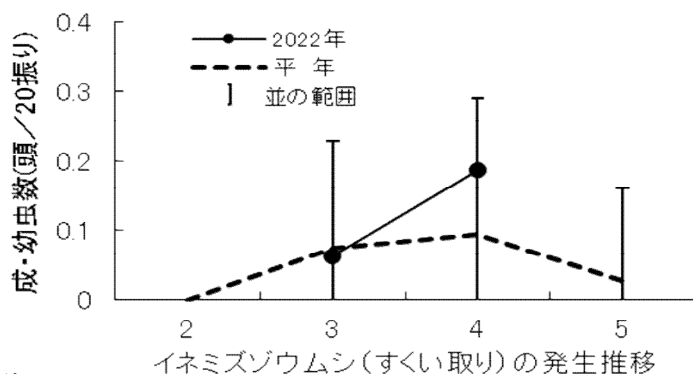
防除のポイント

- ・水田周辺の雑草防除を行い、発生源を少なくする。

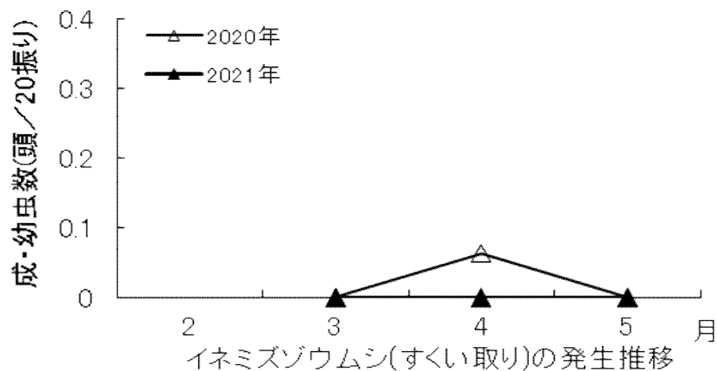
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	④ イネミズゾウムシ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↘	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



・発生ほ場率：19% (平年値：7%)

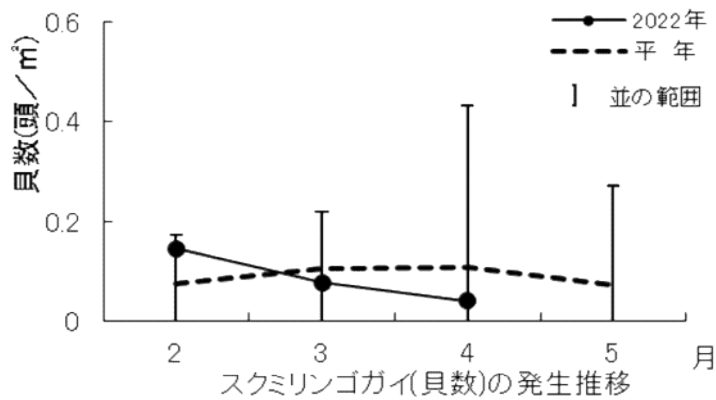
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。

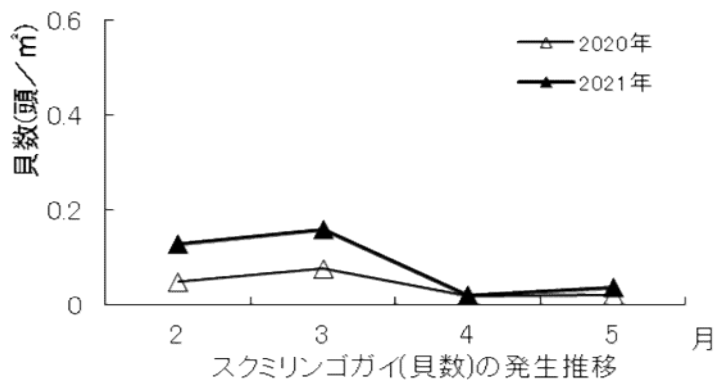
作物	水稻	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ スクミリンゴガイ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



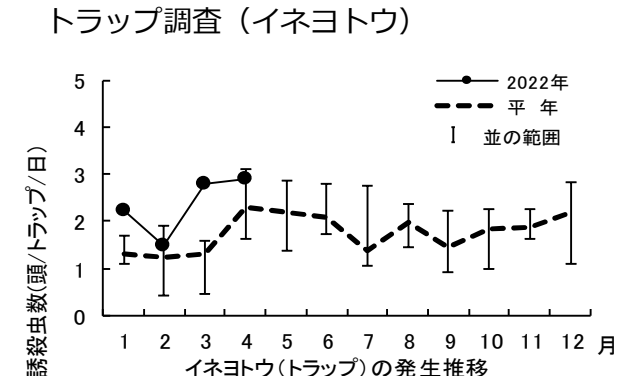
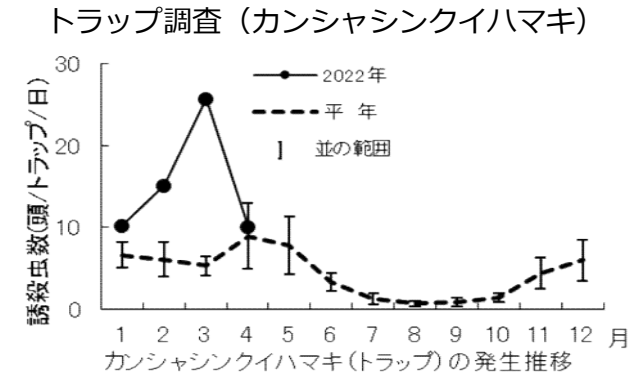
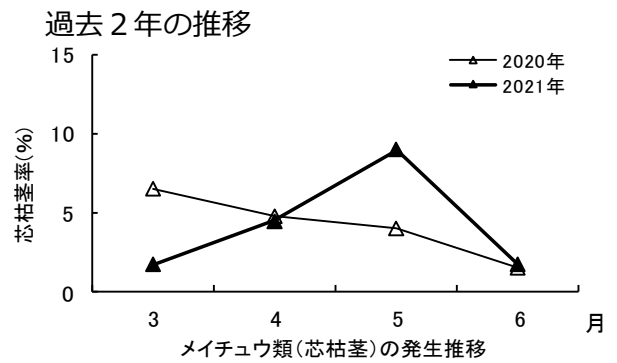
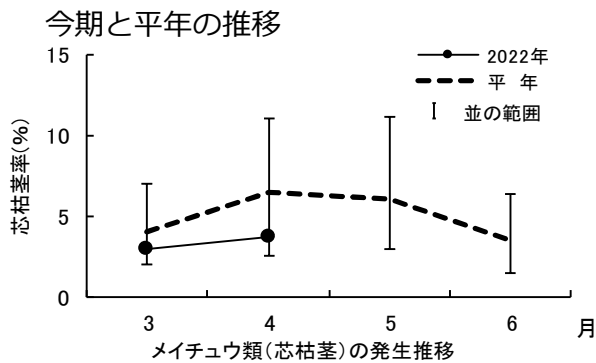
・発生ほ場率：31% (平年値：18%)

防除のポイント

- ・次作に向けた密度低減を図るため、貝や卵塊は見つけ次第捕殺する。
- ・畦畔および用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。

作物	さとうきび	地域	八重山群島	
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	4 月の発生量 (平年比)			並
予報	4 月からの増減傾向			↓
		5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠	芯枯茎率の平年の発生量の推移 (↓)			


調査結果



- ・ 芯枯れ発生ほ場率：75% (平年値：97%)
- ・ 茎内で発見したメイチュウ類のうち、97% (29/30頭) がカンシャシンクイハマキ、3% (1/30頭) がイネヨトウであった。

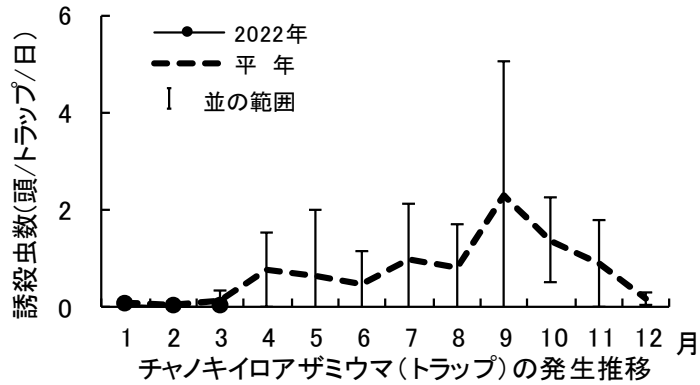
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 乳剤の場合は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。粉剤の場合は、茎と葉元の間散布し降雨や散水等により溶解させ、葉鞘内部へ浸透させることで防除効果が高まる。
- ・ 植え付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。

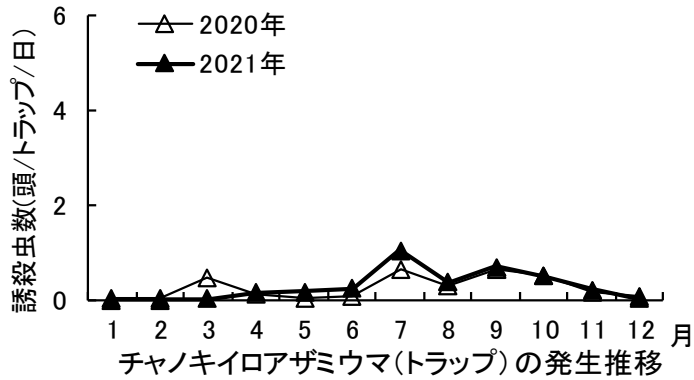
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	—	
	5 月の発生量 (平年比)		
予報の根拠			

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移




- ・発生施設率：25%（平年値：72%）
- ・新梢の数が基準以下のため、見取り調査のデータなし

防除のポイント

- ・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・不要な新梢は、施設外に除去する。

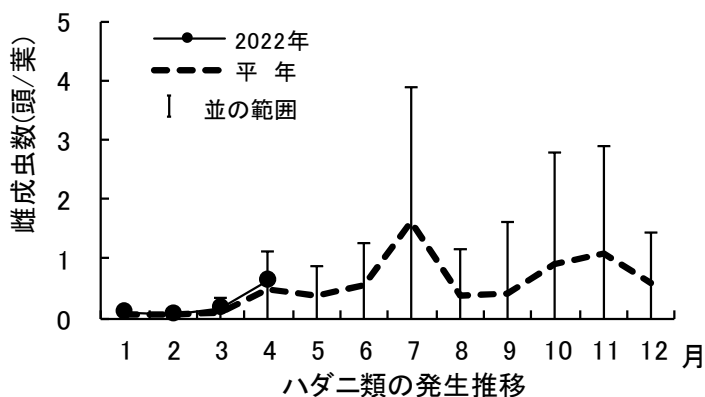


ナガエコミカンソウ

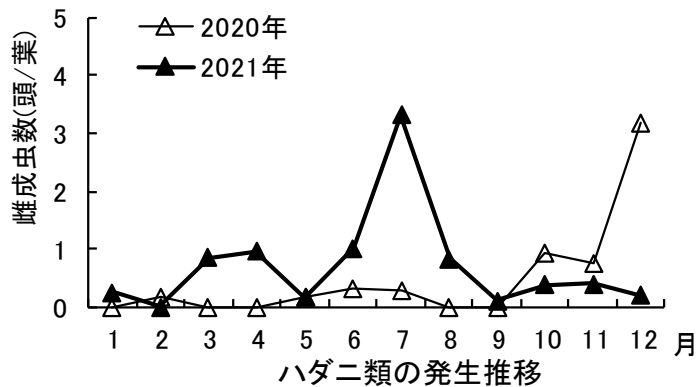
作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① ハダニ類		 <p>シュレイツメハダニ</p>
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の推移



・ 発生施設率 : 40% (平年値 : 31%)


防除のポイント

・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



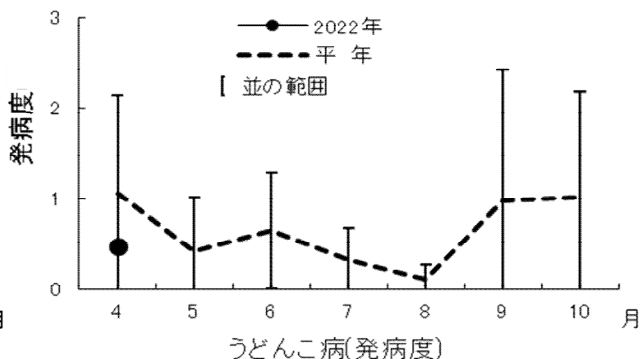
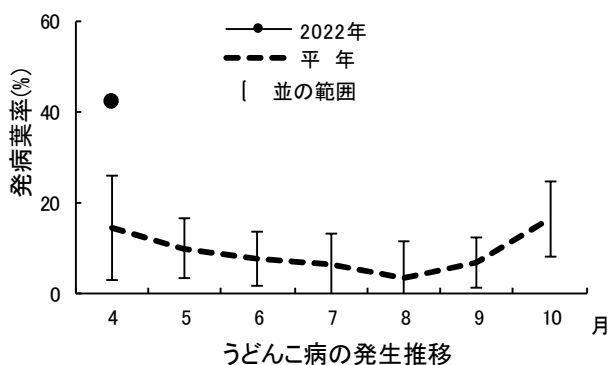
ハダニの寄生による葉のかすれ症



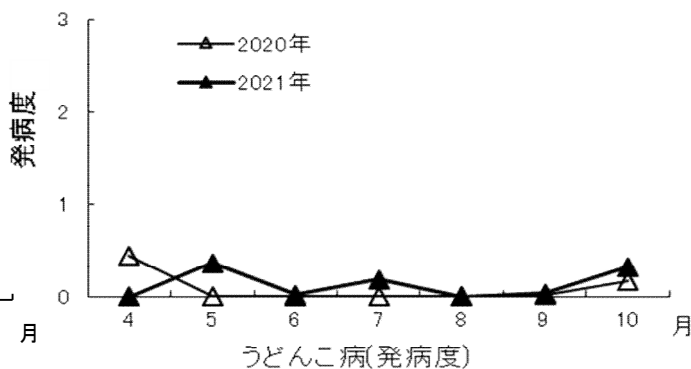
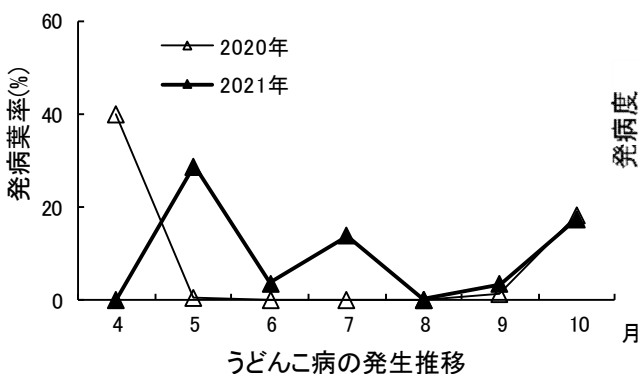
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	やや多	
予報	4 月からの増減傾向	↓	
		5 月の発生量 (平年比)	やや多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：100% (平年値：53%)

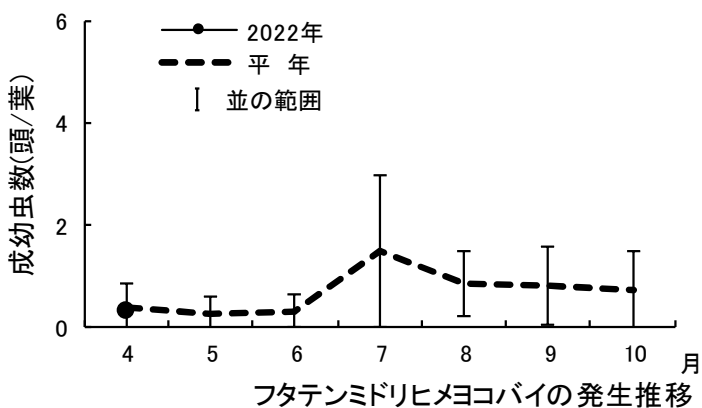
防除のポイント

- ・ 下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・ 窒素過多にならないようにする。
- ・ 草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

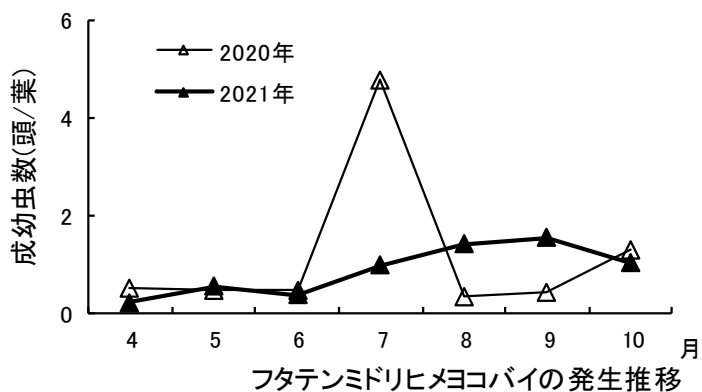
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	→	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：100% (平年値：71%)

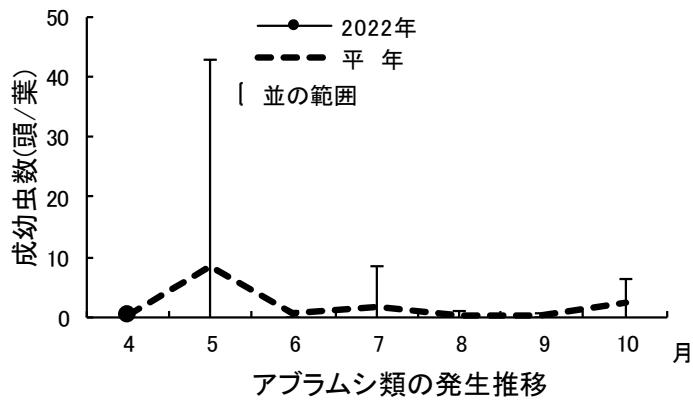
防除のポイント

- ・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。

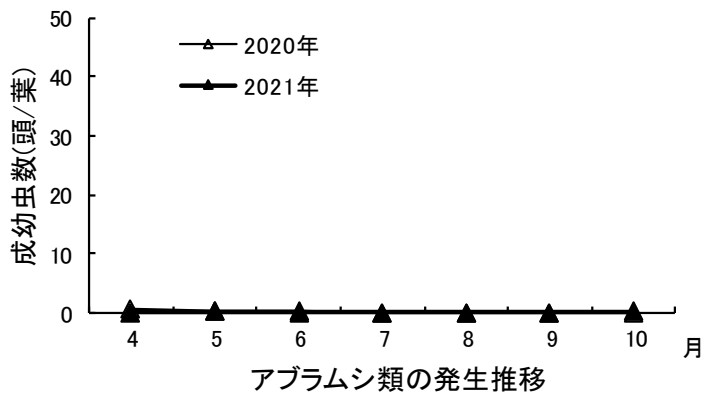
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：60% (平年値：55%)

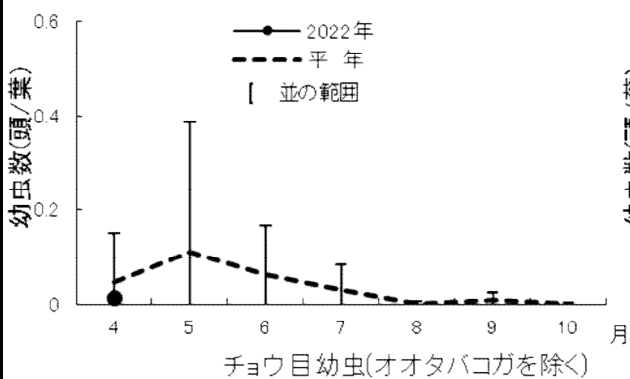
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し発見次第早期防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

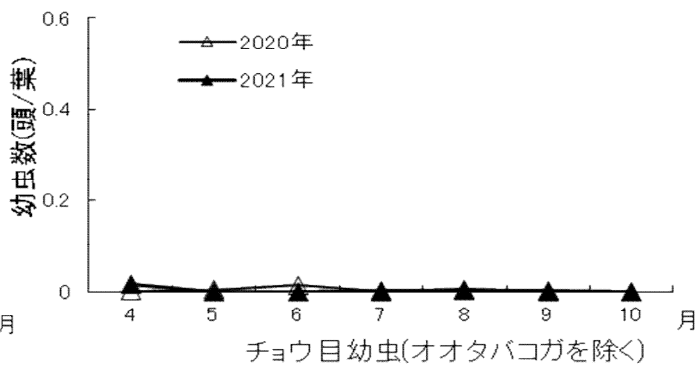
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	④ チョウ目幼虫(オオタバコガを除く)		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年間の発生推移

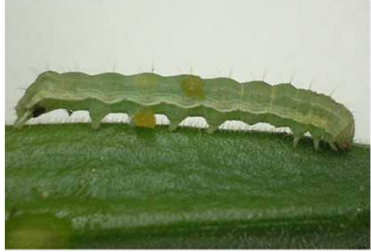


発生ほ場率 : 60% (平年値 : 33%)  
 発生種 : タイワンキドクガ、ハスモンヨトウ

防除のポイント

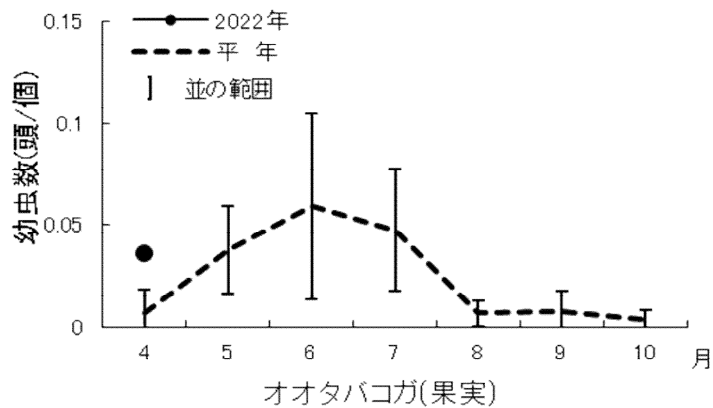
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



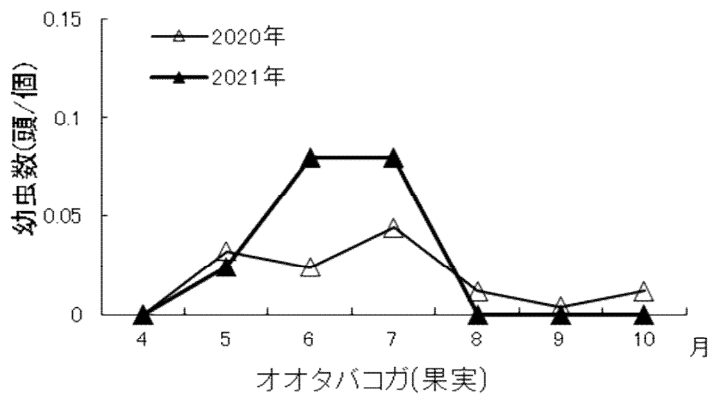
作物	オクラ	地域	八重山群島
病害虫名	⑤ オオタバコガ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	多	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	多
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年間の推移



発生ほ場率：60% (平年値：15%)

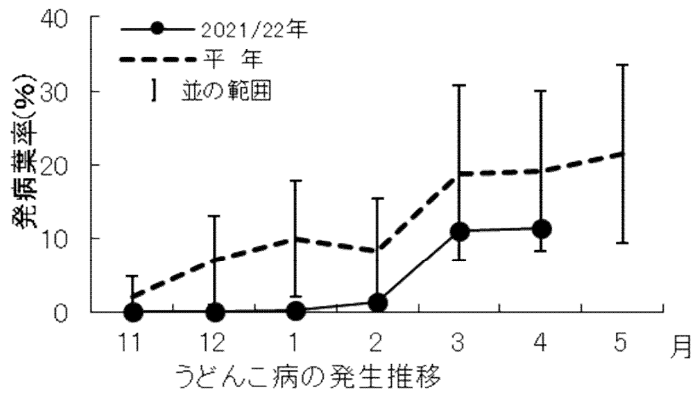
防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・葉裏の幼虫に対しては薬剤効果が低減するので、若齢幼虫期のかすり状被害を発見したら、速やかに薬剤を散布する。
- ・被害果や摘芯、摘花した腋芽・花蕾等の残さは、ほ場外へ持ち出し適切に処分する。

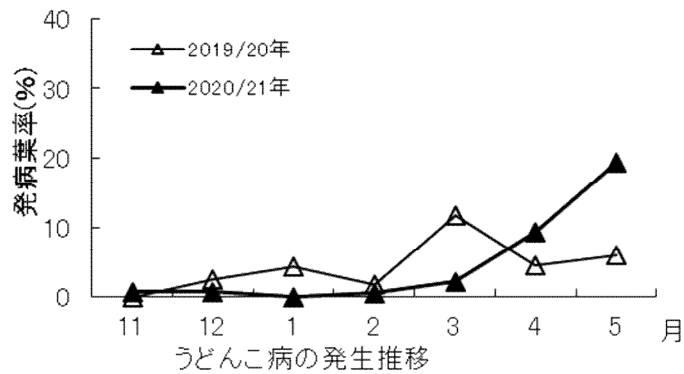
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	① うどんこ病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
		5 月の発生量 (平年比)	並
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・発生施設率：40% (平年値：73%)

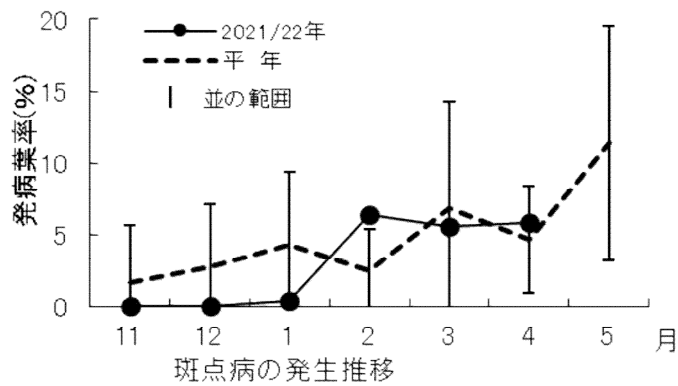
防除のポイント

- ・老葉や病葉は発生源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

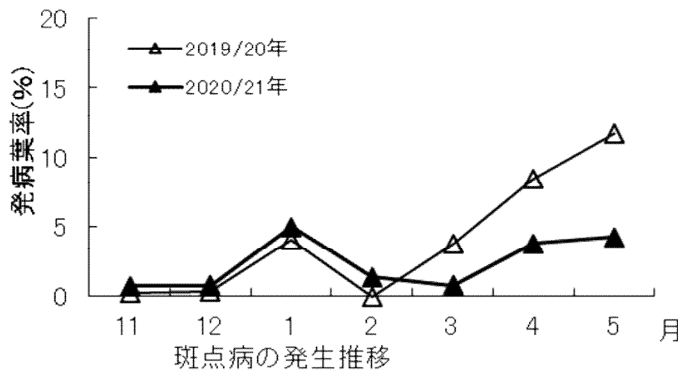
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	② 斑点病		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↗	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

今期と平年の推移




過去2年の推移



・発生施設率：80% (平年値：61%)

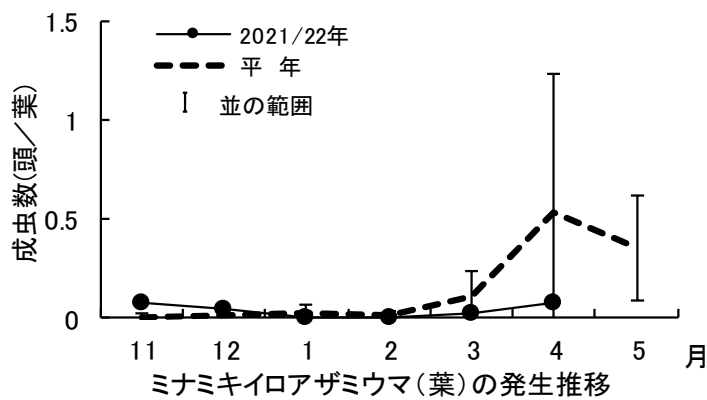
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・老葉や病葉は発生源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。またビニールの破れは補修する。

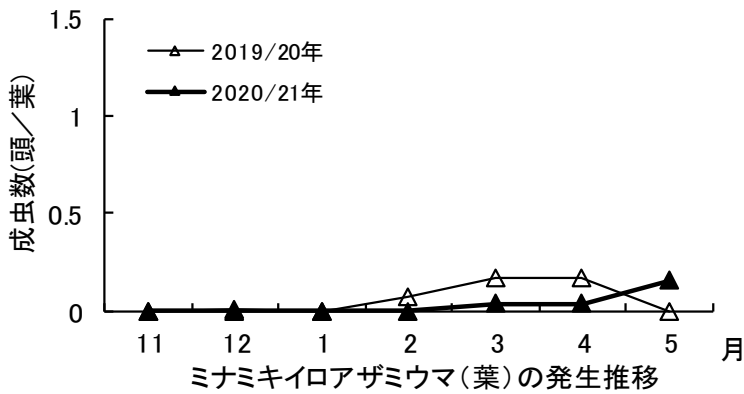
作物	ゴーヤー(施設)	地域	八重山群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報	4 月からの増減傾向	↘	
	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果

今期と平年の推移



過去2年の推移



・発生施設率：80% (平年値：59%)

防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、灰白色斑紋病を媒介する。
- ・施設の出入口や側窓は0.6ミリ以下のネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・施設周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

